

令和元年度県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会

議事概要

1 日 時 令和元年8月27日(火) 13:00～16:30

2 場 所 奈良県議会棟 本会議場及び第2委員会室

3 出席者

荒井正吾委員長、栗山道義副委員長、今川敦史委員、川端章代委員、高本恭子委員、永田正利委員、久隆浩委員

・県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会規則第5条の2の規定により、会議の開催が成立したものとする。

(第5条の2 委員会は、委員(委員長を含む。)の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決をすることができない。)

4 公開・非公開の別

・プレゼンテーション及び質疑応答 公開(傍聴者 63人)

・審査及び選考 非公開

非公開理由: 県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領第3条の規定による。

(第3条 委員会は原則公開とする。ただし、審査及び選考については、奈良県情報公開条例(平成13年3月奈良県条例第38号)第7条第2号に該当する情報について審議等を行うため、非公開とする。)

5 概 要

<開会>

○知事挨拶

・本日の公開コンペでは、学生の皆さんから政策提案のプレゼンをしていただくが、今後、社会に出て行くにあたって、自分の考えをまとめてプレゼンすることは必要な能力になってきている。本事業では、特に優れた政策提案については予算をつけて事業化するプロセスもあるので、そういったことも楽しみにしながらプレゼンしていただきたい。

・大学に関連する話として、先日、中国の清華大学と奈良県とで包括交流の覚書の締結をした。今後、どのような交流をするか、検討を始めているところだが、グローバル化が進む中で、このような公開コンペに清華大学生も参加するといった交流の仕方も可能性があると思うので、そういったことも身近に感じながらプレゼンしていただければと思う。

・最後に、審査委員の皆様をはじめ、本事業の実施にご協力いただいている県内の大学関係者の皆さまに感謝を申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

<プレゼンテーション及び質疑応答>

○県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領第2条の規定により、県内

大学生が創る奈良の未来事業に応募した県内の大学等に在籍する学生（以下「県内大学生」という。）によるプレゼンテーション及び審査委員による質疑に対する県内大学生からの応答を行った。

(1) 政策提案1

政策提案の名称：「就活食堂」

提案者の在籍する大学等の名称：畿央大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

健康科学部 人間環境デザイン学科 3年 久保 更紗

○県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・本提案は、企業と学生がランチ面談でファーストコンタクトをとる際に、どういった話が盛り上がるかがマッチングのポイントだと思うが、例えば、企業からはどのような方が参加して、学生に向けてどのような話をさせていただくのか。逆に、学生はどのような話をして、企業からどのような話を引き出そうと想定されているのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・参加いただく企業の規模にもよるが、参加いただく方は企業にお任せする考え。話す内容はランチをしながら親しみやすい環境づくりをすることで、給料や休み等といった聞きづらいことまで、聞き出せるようにしたいと考えている。

質疑（久委員）：

- ・まずは学生から声をかけるようなイメージか。あるいは、企業から何らかのPRをするのか。それとも両方ともか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・どちらの場合も想定している。最初は、企業から自社の概要説明をしていただき、その都度、学生から質問等をさせていただいて、ランチをしながら気になる点等について面談したいと考えている。

○質疑（栗山委員）：

- ・県内の中小企業は人手不足のため、学生を採用したいのに学生が来てくれない課題を解決するということでランチをしながらマッチングさせようという発想は非常に面白い。提案書に”大手就活情報サイトに掲載されている奈良県内の中小企業数は他府県に比べて少ない”とあるが、そもそも、奈良県の中小企業が大手就活情報サイトに登録をしているのかどうか。登録が少ないのであれば、そのサイトへの登録を促した方がいいのではないかという疑問が一つ。もう一点は、通常の企業説明会では、業種別等で実施することが多いと思うが、提案書には”興味のあるテーマやジャンルごとに面談を実施”と記載されている。具体的にどう実施するのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・大手就活情報サイトの掲載料は、掲載するだけで100万円以上かかる。更にオプション等を追加していくと300万近い金額になり、中小企業にとって金銭的負担が大きいのではないかと思う。そこで、奈良県の協力により、出来るだけ低予算で実施できればいいと考えている。
- ・もう一点のご質問については、今後、様々な学生にヒアリングをしてテーマ

分類をしていきたい。

○質疑（川端委員）：

- ・とても興味深く聞かせていただいた。プレゼンで、現在の大学生は大手企業に就職したい傾向が強い一方で、私立大学の女子学生は中小企業への就職希望が多いというデータがあるとのことだが、奈良県は共働き率が全国最下位というデータもある中で、社会に出て中小企業で働いている女性もいる。中小企業は大手企業より転勤が少ないなど様々なメリットがあると思うが、働く女性に対する中小企業への期待についてどのように考えているか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・女子学生は給料よりも働き方を重視する傾向にあるため、休日出勤の実態等を企業とのマッチングの中で情報を引き出せるようにしたい。

○質疑（今川委員）：

- ・新しい視点での提案で興味深く聞かせていただいた。プレゼンで詳しく説明されなかったが、興味のあるテーマやジャンルで面談とのことだが、そのテーマやジャンルは実行委員会で決めるのか。それとも、学生アンケート等で決めようとしているのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・奈良県は中小企業のジャンルが偏っていると思うが、大学生の意向も聞きながら、今後、中小企業の実態を調査して、学生・大学・県でヒアリングを行いながらテーマやジャンルは決めていきたいと考えている。

(2) 政策提案2

政策提案の名称：

「大和野菜が美味しい！奈良の食文化を世界に発信、SNS(LINEスタンプ)で奈良デザイン」

提案者の在籍する大学等の名称：帝塚山大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

現代生活学部 食物栄養学科4年 片岡 伊吹

○県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・本提案はスタンプのデザインがすごく重要になってくると思う。プレゼンで示されたデザインでは、キャラクターの背景に野菜が描かれていたが、その野菜への思いや、そのデザインでどのように展開していこうとされているのか教えていただきたい。

応答（県内大学生グループ）

- ・鹿をモチーフとしたキャラクターで、あすカルビー（イチゴ）の形をした蝶ネクタイをつけることで、大和野菜をよりわかりやすく情報発信できると考えている。また、様々な大和野菜を鹿の背景に描くことで知ってもらえる機会になると考えている。

質疑（久委員）

- ・一つの共通キャラクターがあって、そこにアクセサリ等の部分で大和野菜を入れていくということか。もしくはキャラクターがいないスタンプや、他にも様々なバージョンのスタンプがあるのか。

応答（県内大学生グループ）

- ・現在は鹿のキャラクターを使用したスタンプだが、他のスタンプも作っていく考え。

○質疑（高本委員）

- ・楽しくて良い提案だと思うが、一つ聞きたいことがある。皆さんが口にして感動した大和野菜を教えてください。

応答（県内大学生グループ）

- ・ゼミ活動の一環で大和野菜を使ったレシピ等を作成しているが、ゼミ活動で大和まなを使ったパウンドケーキがとても美味しく仕上がったことが印象に残っている。

意見（高本委員）

- ・大和まなは、特に下北山村でたくさん栽培されている。売り出し文句は「清流が育てたまな」で、奈良県には素晴らしい水があることが一つの財産。その自然を忘れてはならないので、そういった要素も紹介しながら話を進めていただけるとありがたい。

（3）政策提案3

政策提案の名称：「#シニアセーフティの提案」

提案者の在籍する大学等の名称：帝塚山大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

大学院 心理科学研究科 心理科学専攻 1年 井上 悟

○県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・ゴールが2つあるのかなと思った。一つは、アプリでゲームをすることで自分の能力に限界を感じて免許返納していただくという方向性と、もう一つはアプリを通じて能力向上を図って免許返納しなくても済むという方向性。少し違う方向性が2つあると思うが、追加説明をしていただきたい。

応答（県内大学生グループ）

- ・おっしゃるとおり、2つのゴールがあって、スキルを向上させてそのまま免許返納しなくていい場合と限界を感じて自主的に免許返納していただく場合、どちらもゴールだと考えている。

質疑（久委員）

- ・このアプリは自らのスマホでやるのか、あるいは会場みたいなところで試験的にするのか。

応答（県内大学生グループ）

- ・アプリに関してはスマホだけでなく、PC等、テレビを使った提供も可能と考えている。また、高齢者の自助グループの活動の中で、PCを使った大きな画面で認知機能訓練等を行うことも可能と考えている。

○質疑（永田委員）

- ・私自身、免許返納しなければならない年齢になっているが、田舎に住んでいると免許返納すると生活ができない人もいる。そこで、安全サポカーの実車体験について、自動車メーカーとも交渉しているとのことだがメーカー側の反応はどうか。

応答（県内大学生グループ）

- ・メーカー各社への対応については、帝塚山大学交通心理学研究室と従前から

関係があるため、事前依頼をしている状況。今回、本提案が通ればすぐにも動き出せる状況である。

(4) 政策提案4

政策提案の名称：

「和歌発祥の奈良で現代の「短歌を詠む」文化継承を大学生の手で」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

文学部 文化財学科3年 小江 陽南子

○県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（栗山委員）：

- ・令和万葉の風を上手く掴んだ提案で、中々面白いと思った。短歌は、シニア層は公民館等で歌会をされたりしているが、若者層は勉強する機会はあるのも自分で詠むことは今までなかった。そこで若い世代の現状を聞きたいが、皆さんの「現代短歌を考える会」はどのような会なのか。

応答（県内大学生グループ）

- ・奈良大学の学生を中心に、他にも奈良女子大学や大阪芸術大学の学生も一緒に現代短歌を詠んでいる。

質疑（栗山委員）

- ・一般的にどの大学でも、このような会はあるのか。

応答（県内大学生グループ）

- ・以前、同志社大学の学生とも一緒にしたことがあるので関西の大学でもいくつかあると思う。

○質疑（久委員）

- ・特に若い世代に広めていく場合、面白さやかっこよさが必要かと思う。例えば、ヒップホップのラップのようなリリックを作っている人たちはリズムに乗せて自分の言いたいことを歌っている。短歌とラップは韻を踏む等、非常に似たところがある。異業種、異文化とぶつかりあうような、コラボレーションするような考えは短歌でもするのか。もしくは、別の形でかっこよさを出す方法は考えているか。

応答（県内大学生グループ）

- ・書道パフォーマンス等の芸術分野と何らかのコラボレーションをしたいと考えている。また、短歌の情景を連想させるような写真もあわせて載せて、そこからSNSを活用して情報発信すると効果的だと思う。例えば、若草山を詠んだ短歌なら、若草山の情景の写真と短歌を一緒に載せたい。

○質疑（川端委員）

- ・現在、小・中学校でこういった短歌を詠む取組をされている学校はあるのか。私の母校の小学校の校長先生が熱心な方で、荒れていた図書館を短歌を活用することで図書館の環境が良くなったという話を聞いたことがある。

応答（県内大学生グループ）

- ・昨年、奈良市と姉妹都市であるキャンベラとの短歌会があり、そこで奈良大附属高校の学生が短歌を発表したことはある。

(5) 政策提案5

政策提案の名称：「“規格外果実”を“規格外”のお土産に」

提案者の在籍する大学等の名称：近畿大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

農学部 応用生命化学科4年 松尾 啓史

○県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・開発まで、学生の皆さんがすべてを実施する考えか。シェフやパティシエ等、食のプロは一定の知識を持っていると思うが、そういった方の力を借りることは想定されているか。

応答（県内大学生グループ）

- ・基本的な開発は研究室で行う予定だが、試食会では他学科の学生にも意見をもらいつつ、商品の開発をしていきたいと考えている。

○意見（永田委員）

- ・奈良といえば柿というイメージがある。生産者も一生懸命頑張っている。特にSランク以下の柿は出荷できず廃棄していたものが、柿ワイン等で使っていただけるのはうれしいこと。しっかりとチャレンジして進めていただけるとありがたい。

○質疑（今川委員）

- ・非常に興味深い発表だった。柿にはポリフェノールが含まれていると思うが、柿ワインの酒粕にはポリフェノールはどの程度残っているのか。健康志向という面でポリフェノールをアピールするのも一つの方法だと思う。

応答（県内大学生グループ）

- ・柿ワインの酒粕は柿の果肉を主成分とするのでポリフェノールは含まれていると思うが、今後、分析等を行って実証していきたい。

○意見（高本委員）

- ・私自身、吉野郡で生まれ育ったが、お土産といえば焼いた川魚を真空パックにするとか甘露煮するといった手法しかなく、何とかならないかなと思っていたが、今日のプレゼンを聞いて、柿ワインの酒粕で川魚を漬ける方法を思いついたので一度チャレンジしてみしてほしい。

○質疑（栗山委員）

- ・柿ワインを飲んだことがないが、今、柿ワインを製造している酒屋は県内でどれくらいあるのか。

応答（県内大学生グループ）

- ・把握している範囲では1軒のみ。

質疑（栗山委員）

- ・柿ワインの酒粕はそのお店だけで醸造されるということか。

応答（県内大学生グループ）

- ・それとは別で、現在、近大で研究中の柿ワインを醸造する際に出てくる酒粕を用いようと考えている。

(6) 政策提案6

政策提案の名称：「在来作物を用いた農山村の活性化」

提案者の在籍する大学等の名称：近畿大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

農学部 環境管理学科 4年 文 賀紀

○県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・本提案はいくつかの視点があるかと思うが、耕作放棄地を何とかしたいという視点では、ズバリ言ってしまうと、アワ、キビ、モロコシでなくてもいい。あえて、アワ、キビ、モロコシに注目された理由を追加説明いただきたい。

応答（県内大学生グループ）

- ・アワ、キビ、モロコシは絶滅危惧種になっている。日本古来の大事な作物がそのような危機に陥っているということで何とかしたいという思いがある。

質疑（久委員）

- ・食文化の継承も必要だという視点もあるということか。

応答（県内大学生グループ）

- ・そのとおり。

質疑（永田委員）

- ・農家の立場からみた場合、それらを栽培して収入の見込みがあるのか。雑穀の価格の見通しはあるのか。

応答（県内大学生グループ）

- ・ひとまずは小規模で雑穀栽培を行っていきたい。収穫後は山添村の農産直売所で扱っていただいて進めていこうと考えている。

質疑（高本委員）

- ・田や畑が荒らしましになくなっていく背景には、鳥獣被害が非常に多いことが要因としてあげられるが、対策は考えているか。

応答（県内大学生グループ）

- ・ネットや猪用の柵等を設置することを考えている。

<審査・選考>

○「県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領」第2条の規定により、委員による審査及び選考を実施し、最優秀賞1提案、優秀賞2提案を選考した。

- ・最優秀賞：政策提案5

政策提案の名称：「“規格外果実”を“規格外”のお土産に」

提案者の在籍する大学等の名称：近畿大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

農学部 応用生命化学科 4年 松尾 啓史

- ・優秀賞：政策提案4

政策提案の名称：

「和歌発祥の奈良で現代の「短歌を詠む」文化継承を大学生の手で」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

文学部 文化財学科 3年 小江 陽南子

- ・優秀賞：政策提案6

政策提案の名称：「在来作物を用いた農山村の活性化」

提案者の在籍する大学等の名称：近畿大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：農学部 環境管理学科 4年 文 賀紀

<選考結果発表・表彰>

○荒井委員長より、最優秀賞1提案、優秀賞2提案を発表し、表彰状と副賞を授与した。

<講評>

○栗山審査副委員長より、講評を行った。

- ・6グループとも取り上げられたテーマが非常に目のつけどころが良く、面白かった。
- ・最優秀賞の「規格外果実を規格外のお土産に」は、柿ワインの酒粕を活用した奈良ならではのお土産を創ろうというユニークな提案。奈良の柿は贈り物としても非常に喜ばれる。今後、県の力も借りて創られることを楽しみにしている。
- ・優秀賞の「在来作物を用いた農山村の活性化」は、アワ、キビ、モロコシという強い穀物を耕作放棄地で栽培することで土地を復元させようという発想。さらには地域の福祉作業所と連携して農福連携も視野に入れた提案だが、アワ、キビ、モロコシといった穀物の需要をどのように市場で開発していくかが課題と感じた。
- ・もう一つの優秀賞である「和歌発祥の奈良で現代の「短歌を詠む」文化継承を大学生の手で」は令和万葉の風に乗ったタイムリーな提案。万葉集は難しいイメージがあるが、若者世代が短歌を詠むことで自分自身の気持ちを表現していこうという発想。取組が浸透していけば奈良の文化はもっと面白くなるのではないかと感じた。ただ、和歌発祥の地は島根県ではという話もあったので、また調べていただければと思う。
- ・惜しくも選考されなかった三つの政策提案は、良いポイントを突き過ぎたが故に、「あれもやりたい、これもやりたい」と風呂敷を広げ過ぎてしまった印象を受けた。実現可能性の観点から、もう少しシンプル且つ具体的な提案であれば事業として実施できる可能性はあったと思う。そういった点を今後も勉強していただければと思う。

<閉会>